leprocephalum, および *St. vesuvianum* 群の 1 種では常成分として出現し，*St. piluliferum*, *St. pomiferum*, および *St. massartianum* 群の 1 種では非常成分として出現する。

○学名改訂 2 件（山崎　敬）Takasi YAMAZAKI: New combination and new name in two taxa

1) 小笠原学術調査の一部として，植物目録を作るにあたり，下記のものは自動的に学名の変更を必要とする。

Symplocos pergracilis (Nakai) Yamazaki comb. nov.

Bobua pergracilis Nakai in Bot. Mag. Tokyo **44**: 24 (1930)—*Dicalix pergracilis* (Nakai) Hara, Enum. Sperm. Jap. 1: 106 (1948)—チチジマクロキ

Distr. Isls. Bonin, Isl. Chichizima.

ハイノキ属は外観は皆よく似ているが，おしべの形や子房の構造にかなり変化があり，Brand (1901) は 4 亜属に分類した。中井猛之進氏 (1927) はいくつかの属にわけるべきであるとして，日本のものをハイノキ属 *Bobua* とサワフタギ属 *Palura* とにわけた。初島住彦氏 (1936) はミヤマシロバイ属 *Cordyloblaste* を追加している。しかし現在でも *Symplocos* 一属としてあつかう人が多く，属をわけてもその境はかならずしも明瞭でないようである。同一属内の変異としてあつかう方が適当と思う。

2) 本誌 **44**: 317 で *Salvia formosana* という新組合せを作ったが，すでに早田文蔵氏が台湾のキバナアキギリに同名を使っていることを原寛氏が指摘された。調査不充分で余計な名を作ったことをおわびすると共に，新名を作ることにする。

Salvia muratae Yamazaki nom. nov.—*Salvia formosana* (Murata) Yamazaki in Journ. Jap. Bot. **44**: 319 (1969) non Hayata 1919.

（東京大学理学部植物学教室）

□内藤蕉園著・難波恒雄解説：**詳解古方薬品考**　原著は江戸時代末の医家内藤尚賢の作で，220 余種の薬物の薬性，功用を述べ，当時の京都の著名な画家を動員して画かせた詳細な挿図を伴っている。大部分が植物で，この図によって江戸時代に日本で使っていた薬用植物が，どういうものであったかが明瞭にわかる貴重な本である。また長年にわたって東亜の薬用植物の研究をしている解説者の詳細な説明があり，書中の薬物の中国での原植物，日本でそれにあてて使用した植物，その使用法など，最近の研究結果がくわしくのせられていて，単なる解説以上のくわしい説明があり，薬用植物の研究にとって貴重な解説である。A5 判，760 頁，6.000 円．昭和 44 年 10 月刊．東京都新宿区納戸町 45 大山茂方，古方薬品考刊行会．　（山崎　敬）